

鎮西

編集
陸上自衛隊
西部方面総監部
総務部広報室
電話 096-368-5111

令和8年度西部方面隊 オピニオン・リーダー委嘱終了式及び委嘱式 地域の架け橋としての発信源

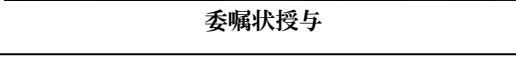
西部方面隊は、令和8年4月14日（火）、健軍駐屯地において令和8年度西部方面隊オピニオン・リーダー委嘱終了式及び委嘱式を実施しました。

委嘱式に引き続き、本制度に係る概要説明、装備品展示（16MCV、12SSM）及び航空機体験搭乗を行い、我が国を取り巻く安全保障環境が戦後最も厳しい状況にある中、我が国が防衛力の抜本的強化に取り組み、我が国の安全保障体制が急速に充実していることについて理解を深めていただきました。

総監講話



記念撮影



委嘱状授与



共同ISR（情報収集・警戒監視・偵察）（徳之島）



統合兵站訓練（大分港）



脅威下の輸送（日出生台演習場）



機外懸吊（大矢野原演習場）



救護所運営（宮古島駐屯地）



日米共同患者治療（日出生台演習場）



同志国オブザーバー研修（日出生台演習場）



日米共同戦闘射撃（日出生台演習場）



日米共同対艦戦闘（日出生台演習場）



日米共同記者会見（キャンプ・ハンセン）



日米共同訓練終了式（キャンプ・ハンセン）



日米共同訓練開始式（健軍駐屯地）

西部方面隊は、令和8年6月20日（土）から6月30日（火）までの間、九州・沖縄の各地において、令和8年度米海兵隊との実動訓練（レゾリュート・ドラゴン26）を実施しました。

本訓練は、島嶼防衛作戦における陸自の領域横断作戦（CDO）と米海兵隊の機動展開前進基地作戦（EABO）を踏まえ、作戦レベルと戦術レベルにおける連携要領の具体化を図るために、西部方面総監と第3海兵機動展開部隊司令官以下により共同で実施する国内における米海兵隊との最大規模の実動訓練です。

6月20日（土）健軍駐屯地での訓練開始式を皮切りに、共同ISR（情報収集・警戒監視・偵察）、機外懸吊、戦場航空救難、HA/DR（人道支援・災害救援活動）、共同戦闘射撃等を日米共同で実施し、6月30日（火）沖縄のキャンプ・ハンセンでの訓練終了式・共同記者会見をもって終了しました。

我が国を取り巻く安全保障環境が戦後最も厳しい状況にある中、本訓練を通じて、日米同盟による抑止力・対処力の強化及び作戦遂行能力の向上を図るとともに、日米間の団結をより強固なものとししました。

令和8年度米海兵隊との実動訓練（レゾリュート・ドラゴン26） 島嶼防衛作戦における作戦レベルと戦術レベルの共同連携要領の向上

第四師団

お問い合わせ先
福岡駐屯地
第4師団広報室
092-591-1020

第4師団創立64周年・

福岡駐屯地開設76周年記念行事

地域住民の自衛隊に対する理解を促進

記念式典

第4師団及び福岡駐屯地は、令和8年4月19日（日）、第4師団創立64周年・福岡駐屯地開設76周年記念行事を執り行いました。本行事は第4師団及び福岡駐屯地に対する地域住民の皆様のご理解とご支援をより一層深めることを目的として開催されたものです。

装備品展示

当日は雨天の予報であったものの、観閲式直前に雨も止み、多数のご来賓及び一般来場者の参加のもと、観閲式が整齊と執り行われるとともに、第4音楽隊による音楽演奏が披露され、会場を華やかに盛り上げました。観閲官（第4師団長・前島陸将）は訓示の中で「今後も日々変化する国内外情勢を注視しつつ、いつ如何なる時でも与えられた任務に対応し得る「即応力を強化」するとともに、部隊・隊員の「安全・健全」を保持し、師団の使命を果たしていく所存であります」と今後の決意を述べました。

装備品展示

多数の来場者で賑わう駐屯地内各会場においては、装備品試乗及び装備品展示を実施して自衛隊の各種装備品を紹介するとともに、自衛隊活動紹介コーナーにおける写真展示や試着、VR体験等を通じて自衛隊の活動を体感していただきました。また、音楽演奏やちびっこ広場では隊員と直接ふれあう機会を設け、自衛隊への理解を深めていただきました。さらに、本記念行事では初の試みとなる「この地紹介コーナー」を設け、北部九州4県に所在する部隊等が地域の特産品や工芸品を紹介し、各地域の醍醐味を堪能していただきました。これら多彩な催しを通じて、来場者の皆様からは、「初めて見に来たけれど、格好良かったです」「普段見たり、乗ったりできないので良い思い出になりました」等のお声をいただく等、楽しく有意義な時間をお過ごしいただきました。

自衛隊活動紹介コーナー

第4師団及び福岡駐屯地は地域の皆様のご理解とご協力をより一層得られるよう、多種多様な任務に邁進し、日々成長し続けてまいります。

博多どんたく港まつりへの参加

大きな感動と来場者との一体感



どんたく広場パレード



博多駅前演奏



県庁公舎前演奏



サキソフォン奏者

陸上自衛隊第4音楽隊及び福岡駐屯地防人太鼓は、令和8年5月3日（日）及び4日（月）に福岡市内で開催された「博多どんたく港まつり」に参加しました。第4音楽隊はメイン会場であるどんたく広場での華やかな演奏パレードをはじめ、博多駅本舞台及び岩田屋三越本舞台でのステージ演奏を実施しました。会場は終始、温かい拍手と歓声に包まれ、音楽隊の奏でる音色が祭りの熱気をさらに盛り上げました。また、防人太鼓は県知事公舎前において迫力ある太鼓の音色で観客の心に響く演奏を披露しました。会場は国内外から訪れた約200万人を超える観客の皆様との交流は隊員にとっても大きな励みとなりました。

サキソフォン奏者として参加した音楽隊員は「初めて博多どんたく港まつりに参加し、多くの方々に音楽を届けられたことを大変嬉しく思います。ステージ演奏、パレード演奏でそれぞれ異なる緊張感の中、第4音楽隊の一員として演奏する喜びを改めて実感しました。また、温かい拍手や声援に支えられた貴重な機会となりました」と述べました。

陸上自衛隊第4音楽隊及び福岡駐屯地防人太鼓は、これからも音楽という「心の架け橋」を通じて、地域の皆様との絆を深め、皆様の心に響く音色を届けてまいります。

令和8年度福岡県総合防災訓練

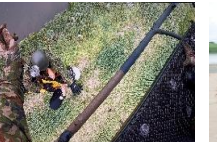
連携強化 住民の防災意識の向上



軽門橋による車両輸送



通信復旧訓練



緊急救出訓練



装備品展示

令和8年5月24日（日）、福岡県が主催する福岡県総合防災訓練に第4師団の隷下部隊である第4高射特科大隊（久留米）、第4飛行隊（目達原）、第4情報隊（福岡）が参加しました。

本訓練は、うきは市、久留米市の2会場で行われ、大雨による浸水被害や地震による家屋の倒壊・火災の発生を想定。災害時における県や市町村、防災関係機関との連携強化、そして住民への防災意識の普及に寄与するため、隊員たちが実践的な訓練に臨みました。

うきは市会場では、第4高射特科大隊が災害時の食料供給を支える炊き出し訓練を実施したほか、第4飛行隊のヘリコプターにより、孤立者の救助だけでなく、近年の災害でも注目されるペットの救助訓練が行われました。

一方、久留米市会場では、第4高射特科大隊が施設分野の専門部隊である第5施設団と協同して軽門橋による水上輸送訓練や通信の復旧訓練に当たったほか、第4飛行隊が河川に取り残された人を救助する訓練を実施しました。さらに本会場では、第4情報隊が災害時の状況把握に有効な無人偵察機「スキャンイーグルII」を展示し、訪れた市民へ自衛隊の最新装備を披露しました。

第4師団は、今回の訓練を通じて、自治体や関係機関との連携強化を図るとともに、県民への防災意識の向上と自衛隊に対する理解促進を図りました。これからも国民の安全を守るため、常に物心両面の準備を行い、即応態勢を万全にしていまいります。

第八師団

お問い合わせ先
北熊本駐屯地
第8師団広報室
096-343-3141

令和8年度総合戦闘射撃及び米海兵隊との共同戦闘射撃（第42即応機動連隊）

強化な日米両隊員の絆

第8師団は、令和8年6月10日（水）から6月15日（月）までの間、日出生台演習場において、令和8年度総合戦闘射撃訓練を実施しました。第42即応機動連隊（連隊長 鈴木 1佐）は、対着上陸戦闘の場面を想定し、侵攻する敵の上陸阻止から沿岸部での撃破に係る戦闘様相を一連の状況下で行い、障害閉塞、第一線救護、車両回収等の戦闘行動と連繋させて連隊の保有する火器・火砲の実弾射撃訓練を昼夜間にわたり実施して、任務遂行能力の向上を図りました。

併せて、6月14日（日）に熊本県本々による総合戦闘射撃見学ツアーを実施しました。募集対象者、防衛モニター及び各種協力団体（計120名）の参加者は、16式機動戦闘車をはじめとした各種火砲の迫力ある射撃に大きな関心を示すとともに、連隊の高い練度を確信し、陸上自衛隊に対する理解促進に寄与することができました。

また、令和8年6月26日（金）から6月29日（月）までの間、令和8年度国内における米海兵隊との実動訓練（レゾリュート・ドラゴン26）において、「米海兵隊との共同戦闘射撃」を実施しました。一連の状況下において、日米共同での火力調整等を実施し、昼夜間にわたり日米共同による連携した総合的な火力を発揮するとともに、強化な日米連携に基づく隊員相互の絆の涵養、理解の深化及び日米共同に係る相互運用性の向上を図ることができました。



海兵隊との共同砂盤予行



海兵隊との共同戦闘射撃



120mm迫撃砲射撃



16式機動戦闘車夜間射撃

令和8年度第1次教育訓練基盤構築（第8施設大隊）

質の高い工事管理による良好な訓練環境の提供

第8師団は、令和8年4月6日（月）から4月17日（金）までの間、日出生台・霧島演習場及び各演習場域において、訓練施設等を整備し、効率的かつ効果的な訓練等の実施と演習場の長期安定使用に寄与することを目的とした、令和8年度第1次教育訓練基盤構築を実施しました。第8施設大隊は、示された整備任務を各演習場等整備計画及び設計基準に基づき実施し、運用・訓練構想を具現する基盤、特に所要の部隊規模に応ずる将来を見据えた整備を実施するとともに、民生品等を活用した恒久的な整備を推進し、技術指導部による教育、技術指導等により質の高い工事管理を実施しました。引き続き任務を遂行し得る訓練環境を維持するため、各種能力の向上に努めていきます。



精密な測量業務



ヘリポートの新設整備（大矢野原）

生活勤務環境改善（第8飛行隊）

働きがいの実感

防衛省・陸上自衛隊は、やりがいと働きやすさの双方を向上し、自衛官一人ひとりが働きがいを感じられる環境を構築していくため、若い世代のライフスタイルの変化等を踏まえ、生活・勤務環境の改善に継続的に取り組んでいます。

第8飛行隊（隊長 久木田 1佐）が所在する高遊原分屯地では、分屯地居住者の生活区域である営内居室において、隊員個人のプライバシーを考慮した空間を確保するとともに、睡眠の質の向上が期待できる「体圧分散マットレス」への更新やWi-Fi環境の整備などを中心に改善を進めています。

また、「生活・勤務環境改善会」を定期的に実施し、隊員の声を取り生活・勤務環境の改善の更なる促進を図り、分屯地所属隊員が一丸となって、働きがいを感じられる環境の構築に取り組んでいます。



営内居室





第十五旅団

お問い合わせ先
那覇駐屯地
第15旅団広報・渉外班
098-857-1155

令和8年度第1次・第2次旅団訓練検閲 各部隊の任務遂行能力を確認

第15旅団は、第1次旅団訓練検閲（令和8年4月17日から20日まで）及び第2次旅団訓練検閲（6月19日から26日まで）を行いました。第1次では第51普通科連隊、第15後方支援隊及び第15特殊武器防護隊が、沖縄県内の駐・分屯地・空自基地、訓練場等に展開して訓練しました。第2次では、宮古警備隊が大分県の日出生台演習場と熊本県大矢野原及び十文字演習場において訓練し、各部隊の指揮官を核とし、任務遂行に係る部隊の運用及び隊員の練度を確認し、県民の安全と安心を守るための能力向上を図りました。



除染を行う第15特殊武器防護隊



警備を行う第51普通科連隊



敵の侵攻を阻止する宮古警備隊



救護処置を行う第15後方支援隊



賑わう会場の様子



第15音楽隊による演奏

自衛官候補生課程教育

自衛官として必要な資質の涵養

第51普通科連隊は、那覇駐屯地において令和8年4月12日から6月21日の間、自衛官候補生課程教育を担当しました。本教育では基本教練、戦闘訓練、野外行動訓練など多岐にわたる内容を教育カリキュラムに基づき、自衛官となるために必要な基礎的な知識・技能及び資質を養うことを目的として行われました。着隊時、不安そうにしていた候補生達も修了式では逞しく成長した姿が見られました。教育を終えた上原候補生は「後期教育では、離れるメンバーも多くいますが、また、再会した時にお互い成長した姿を見せられるように今以上に精一杯頑張りたい」と仲間と共に引き続き頑張っていくという抱負を述べてくれました。



銃貸与



戦闘訓練



体力検定



修了式

「もずくの日」音楽演奏支援

琉球の響き、観客と隊員の心を一つに

第15音楽隊は、令和8年4月19日に沖縄県うるま市勝連平敷屋漁港で開催された「もずくの日」イベントにおける音楽演奏支援を行いました。本イベントは毎年、もずくの収穫最盛期に合わせてうるま市で開催される大きなイベントで、今年も約4千名の方々がイベントを楽しんでおられました。第15音楽隊もイベントの盛会のため、沖縄ゆかりの「琉神マブヤー」「涙そうそう」等の数曲を披露し、見学された皆さんから、たくさんの笑顔と拍手をいただきました。



方面直轄部隊

水際障害構成能力を強化

（第5施設団）

練度の維持・向上と地域との連携強化

第5施設団第303水際障害中隊は、令和8年5月17日から22日までの間、生地において海上航行訓練及び潜水訓練を実施しました。海上航行訓練では、水際地雷の正確な敷設に資するため、事前に作成した敷設計画に基づき、94式水際地雷敷設装置の航行練度の向上について演練するとともに、潜水訓練では、新たな練成要員を含む潜水員が、水中偵察や潜水員相互の連携について練成し、練度の維持・向上を図ることができました。

また、5月21日には、小郡駐屯地モニター及び協力団体を対象に、航行訓練の見学会を実施しました。見学者に対して、器材や装備品の展示説明を実施した後、敷設装置に体験搭乗し、海上を航行しました。航行中、降雨に見舞われる場面もありましたが、見学者からは「良い経験となりました」「思い出に残りました」との感想をいただき、自衛隊に対する更なる理解を促進するとともに、地域との連携を強化しました。



偵察ボートのへん水



体験搭乗



水際地雷敷設装置の航行



潜水訓練

令和8年度新隊員前期教育

（西部方面混成団）

自衛官として必要な資質の涵養

西部方面混成団第一一八教育大隊は、令和8年3月30日（月）から6月30日（火）までの間、久留米駐屯地において、第26期一般陸曹候補生課程（男子91名）及び令和8年度自衛官候補生課程（男女90名）教育を行いました。

本教育は、自衛官として必要な資質を涵養し、基礎的な知識及び技能を修得させることを目的に、心技体の基礎を備えた陸士の育成を行いました。入隊当初は、不安気だった隊員も教育が進むにつれ顔つきが引き締まり、大隊長要望事項である「目標を持って積極的に修学し、日々成長せよ」「同期の絆を深めよ」を具現実行し、日々逞しく成長していきま

した。一般陸曹候補生 重松2士は、「辛いときこそ同期と声を掛け合うことによって団結力が深まり、厳しい訓練も乗り越えることができました」自衛官候補生 森自候生は、「この教育中で役職についた際、積極的に行動することによって責任感を実感できました。また、体力に自信がないので今後も体力の向上に励みます」と力強く述べました。

教育修了後は、後期教育部隊へ赴任し、更に、約三か月間の各職種の専門的な教育を受けた後、各部隊へ配置されます。今後の活躍を心から祈念します。



射撃検定



戦闘訓練



行進訓練（写真中央 重松2士）



体力検定（前列 森自候生）

#1予備自衛官招集訓練(西部方面衛生隊)

～あらゆる任務の遂行能力を確認～

西部方面衛生隊は、令和8年5月28日～6月1日までの5日間、予備自衛官61名に対し、自衛隊熊本病院と協同した招集訓練を実施して予備自衛官に必要な職能の向上を図りました。

衛生科が行う予備自衛官招集訓練については、医師や看護師等様々な資格等を有する方との臨床での勤務経験を踏まえた訓練が実施できるため、自隊の衛生科技術の向上の観点からも有意義な訓練が実施できます。特に今回の職務訓練では、野外の収容所業務において患者受け入れから後送準備までの一連の行動について、常備衛生科隊員と予備自衛官との連携要領を演練するとともに、自衛隊熊本病院へ患者を後送し病院職員との治療業務を演練すること等の新たな試みで、より連携場面を意識した訓練を実施することができました。

訓練に参加した予備自衛官からは「内容の濃い訓練ができ、これから参加したいと感じた」「実際のイメージを持つことが出来、業務について考えつつ訓練に臨めた」などの意見をいただき、予備自衛官の意識の高さを受け、我々常備自衛官も感化され意欲向上につながりました。本訓練で改めて、予備自衛官は我々の任務達成には重要な役割を果たしていただけると実感した良い訓練となりました。西部方面衛生隊は引き続き任務を主に、実効性ある業務を具体的に実施できるよう邁進してまいります。



救急車への患者の搭載訓練

野外でのX線撮影業務

予備自衛官(左) 看護官(中) 常備自衛官(右)

熊本市防災訓練(熊本地震10年事業)

～災害対処能力を確認～

西部方面航空隊は、令和8年5月16日(土) 熊本市防災訓練に参加しました。熊本地震から10年の節目を迎え、南海トラフ地震を見据えた、発災直後の初期期を支える「ブッシュ型支援」のため、近隣の福岡市職員(支援車両を含む)のCH-47による空輸を実施しました。

空輸に当たっては、航空隊と自治体(熊本市及び福岡市)の間において、一連の連携要領について綿密に調整した上で搭載・卸訓練を行い、迅速・確実に熊本新港(被災地)に輸送しました。西部方面航空隊は、何時いかなる時も、航空機の持つ能力を最大限に発揮して、人命救助、物資輸送等を速やかに実施し、地域住民の皆様の安全と安心を守るべく日夜訓練に励んでいます。



事前調整中

福岡市の車両を卸下

福岡市職員が搭乗し、熊本新港へ飛来

青空に描く希望の軌跡 熊本復興飛翔祭(熊本地方協力本部)

～ブルーインパルス展示飛行とともに、体験型広報で自衛隊の魅力を発信～



大盛況の自衛隊ブース

人気を集めたイベント限定缶バッジ



ブルーインパルスの展示飛行に歓声を上げる来場者

熊本地本広報大使 宮崎さんによる広報活動の様子



記念撮影を楽しむ来場者

VRゴーグルで自衛隊の活動を疑似体験

自衛隊熊本地方協力本部(本部長 1等陸佐 矢野 秀樹)は、令和8年4月11日(土)、熊本城二の丸広場において「熊本復興飛翔祭2026」における、ブルーインパルスによる展示飛行にあわせて、募集広報ブースを出展しました。当日は晴天に恵まれ、多くの来場者で会場は大いに賑わいを見せました。

上空では、ブルーインパルスが華麗な編隊飛行を披露し、青空に白いスモークで描かれる軌跡に、観客からは大きな歓声が上がりました。その迫力ある飛行は、熊本の復興への想いと未来への希望を象徴するものとなり、来場者の心に深く刻まれていたと思います。

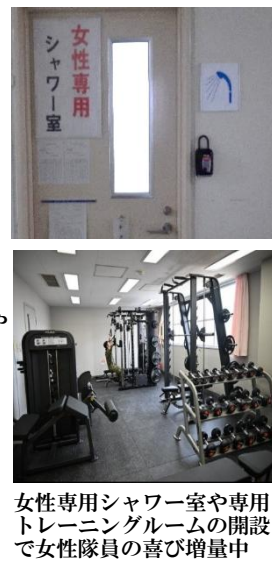
募集広報ブースでは、来場者に自衛隊の活動や魅力をより身近に感じていただくため、多彩な体験型コンテンツを実施しました。中でも、当日限定のオリジナル缶バッジの作成は子供から大人まで幅広い世代に人気を博し、多くの方が思いの一品として手に取っていました。また、制服試着体験やオートバイの展示では、実際に自衛官の制服を着用し記念撮影を楽しむ来場者の姿が多く見られました。さらに、VRゴーグル体験では、臨場感あふれる映像に多くの来場者が長蛇の列を作るほどの盛況ぶりでした。加えて、災害派遣の映像放映や制度説明コーナーでは、自衛隊の任務や役割について一層理解を深めていただくことができました。

また、当日は熊本地本広報大使の宮崎さんが陸上自衛隊の制服を身にまとい、来場者との交流や広報活動を積極的に実施しました。和やかな雰囲気の中で写真撮影や声かけを行い、多くの来場者へ自衛隊をより身近に感じていただくとともに、その活動への理解促進に大きく寄与しました。

自衛隊熊本地方協力本部は、今後もイベント・広報活動を通じて、地域内外の方々に自衛隊の各種活動や魅力について積極的にPRし、多くの入隊希望者を獲得できるように、本部長要望事項「任務完遂」「明るく、楽しく、前向きに」のもと、募集広報活動に邁進していく所存であります。

日本一魅力ある駐屯地を目指して(大村駐屯地業務隊)

大村駐屯地業務隊は、部隊・隊員のための生活勤務環境改善推進に力を入れています。明治時代からの旧陸軍の庁舎や集会所を史料館・宿泊所として現在も大切に管理使用しています。一方で、今の時代の要求に応えるための各種魅力化の推進と地域の皆様との信頼構築を図っています。引き続き所在する長崎県大村市や東彼杵郡等の地域の魅力にも負けないよう、大村駐屯地の魅力を増量してまいりますので是非大村駐屯地にお立ち寄りください。



女性専用シャワー室や専用トレーニングルームの開設で女性隊員の喜び増量中



地域の部外大学の実習支援や食事環境の魅力化に取り組む

西部方面会計隊本部

1曹 東 英一
長女 東 英佳さん

温か家族

親子で健軍駐屯地勤務

現在私は、健軍駐屯地の西部方面会計隊本部で自衛官として、長女は健軍駐屯地業務隊厚生科にて事務官として、同一駐屯地内の別部隊でそれぞれ勤務しています。ちよつとした機会にお互い勤務ぶりが見え、私が大型トラックを運転している姿を見られる事があれば、長女が真面目な雰囲気です。事務室にて自衛官へ説明をしている姿を見たりと、普段の家庭内では見れないお互いの仕事の一面を見ることができています。そんな親子ですが、お互い美味しいものが好きで駐屯地に来た展示販売の前で、のほほんと買い物をしてる姿を部隊の方に知られる事もしばしば。

子供の成長を間近で見ることができ、貴重な体験に感謝し、どちらか転属するまでは、今の状況を楽しんでいきたいと思っています。



展示即売店の前で